

# ウェブ併用で「第7期／番外編」最終講義を開催

## ◆◆ 東構塾 ◆◆



初級、中・上級の各コースで合同開催

また、新型コロナの換算のほか、気体の重さ、ナ感染防止策として遠隔地でも受講できるウェブ併用とし、会議室には10人、ウェブで5人の計15人が参加した。

青野塾長は「今日は第7期の講義全般を通じて皆さんから提出された鉄鋼、建築鉄骨、一般業務等における個々の疑問点を取りまとめて授業を進めたい」と述べ、テーマを「東構塾・番外編」とした主旨を述べた。具体的には、ヤード・ポンド・尺貫の長さや質量

の換算のほか、気体の重さ、鉄の合金の変態点、焼入れ、焼もどし、鉄の5元素、高炉材と電炉材の仕組み、溶接、熱影響部、溶接ヒューム、亜鉛めっきなど幅広い項目について青野塾長自らの体談やエピソードを交えながら解説した。

東京鉄構工業協同組合(東構協)の青年経営者委員会(幹事長＝松田一朗・松田鋼業社長)が主催する若手経営者・技術者育成プロジェクト、「東構塾」(塾長＝青野弘毅・元那須

ストラクチャー工業)は3月27日、東京都中央区の東構協会議室で第7期第11回の講座を開いた。今回が第7期の最終講義となり、初級、中・上級の各コースの合同開催として行われた。

第7期の講義終了で通常は「卒業」としての研修旅行となるが、新型コロナ感染防止の観点から研修そのものを延期とした。また、第8期生は4月に募集し、第1回講義は6月に行う。今後、2カ月に1度のペースで開催するが、コロナ禍を配慮して、ウェブ配信を併用しながら実施する予定としている。